

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
東京文化財研究所75年史編纂事業（情04）	企画情報部	93
『東京文化財研究所年報』（*情05）	企画情報部	93
『東京文化財研究所概要』（*情05）	企画情報部	93
『東文研ニュース』（*情05）	企画情報部	93
平成20年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（美04）	企画情報部	93
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	95
「保存科学」49号の出版（保04）	保存修復科学センター	96
第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（美07）	企画情報部	97
『博物館資料の保存環境』出版のための準備（保06）	保存修復科学センター	98
『黒田清輝フランス語資料集』（*美01）	企画情報部	99
『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』（*美02）	企画情報部	99
『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—近赤外線画像編—』（*情01）	企画情報部	100
『春日権現験記絵披見台 共同研究調査報告書』（*情01）	企画情報部	101
『伊藤若冲 動植綵絵』（*保01）	保存修復科学センター	101
『2009日韓共同研究報告会—石造文化財の保存と修復—予稿集』（*修01）	保存修復科学センター	102
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2009年度』（*修03）	保存修復科学センター	102
『Textbook Japanese Lacquer -Intermediate- 研修用テキスト漆—中級編—』（*修05）	保存修復科学センター	103
『Urushi 2009, International Course on Conservation of Japanese Lacquer : 国際研修「漆の保存と修復」2009』（*修05）	保存修復科学センター	103
『International Training Program :“The Preservation and Restoration of Urushiware” : 国際研修「漆工品の保存と修復」』（*修05）	保存修復科学センター	104
『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成21年度（絵画／工芸品）』（*修04）	保存修復科学センター	104
『在外日本古美術品保存修復協力事業 工芸品（漆工品）の修理報告ダイジェスト版』（*修04）	保存修復科学センター	105
『鉄構造物の保存と活用』（*修06）	保存修復科学センター	105
Preservation and Utilization of Aircraft Heritage（*修06）	保存修復科学センター	106
『中央アジアの文化遺産と日本の貢献』（日本語版、ロシア語版）（*セ01）	文化遺産国際協力センター	106

Restoration and Conservation of Immovable Heritage Damaged by Natural Disasters (*セ01)	文化遺産国際協力センター	109
『遺跡はなぜ残ってきたか』(*セ01)	文化遺産国際協力センター	109
『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成21年度成果報告書』(*セ02)	文化遺産国際協力センター	110
『日中共同研究 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究2009』(*セ03)	文化遺産国際協力センター	110
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2009』(*セ04)	文化遺産国際協力センター	111
Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts (*セ05)	文化遺産国際協力センター	111
『パーミヤーン遺跡の地下探査 第1次および第2次ミッションの成果』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	112
『古代ペンジケントの壁画と彫塑—古代ペンジケントの壁画の画法と保存—古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存—』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	113
『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2008年度(第1次～4次ミッション)』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	114
『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度(第1次ミッション)—』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	115
『染織品の保存と活用』(ビデオDVD)(*セ06)	文化遺産国際協力センター	116
『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』(*セ06)	文化遺産国際協力センター	117
Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategies(*セ06)	文化遺産国際協力センター	117
『鈴木敬寄贈図書目録』(*情03)	企画情報部	118
『国際資料室蔵書目録』(*セ08)	文化遺産国際協力センター	118
『各国の文化財保護法令シリーズ[6] カザフスタン』(*セ07)	文化遺産国際協力センター	118
『各国の文化財保護法令シリーズ[7] キルギス』(*セ07)	文化遺産国際協力センター	119
『各国の文化財保護法令シリーズ[8] トルクメニスタン』(*セ07)	文化遺産国際協力センター	119
『各国の文化財保護法令シリーズ[9-a1] フランス』(*セ07)	文化遺産国際協力センター	119

- *注 ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)(③情05)の一環として実施した。
- ・『黒田清輝フランス語資料集』は、東アジアの美術に関する資料学的研究(①美01)の一環として実施した。
 - ・『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』は、近現代美術に関する総合的研究(①美02)の一環として実施した。
 - ・『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—近赤外線画像編—』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究(①情01)の一環として実施した。
 - ・『春日権現験記絵巻披見台 共同研究調査報告書』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研

- 究（①情01）の一環として実施した。
- ・『2009日韓共同研究報告会—石造文化財の保存と修復—予稿集』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2009年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
 - ・『Textbook Japanese Lacquer -Intermediate- 研修用テキスト漆—中級編—』は、国際研修「漆の保存と修復」（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・『Urushi 2009, International Course on Conservation of Japanese Lacquer :国際研修「漆の保存と修復」2009』は、国際研修「漆の保存と修復」（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・『International Training Program :“The Preservation and Restoration of Urushiware” :国際研修「漆工品の保存と修復」』は、国際研修「漆の保存と修復」（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成21年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修04）の一環として実施した。
 - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 工芸品（漆工品）の修理報告ダイジェスト版』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修04）の一環として実施した。
 - ・『鉄構造物の保存と活用』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・Preservation and Utilization of Aircraft Heritageは、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・『中央アジアの文化遺産と日本の貢献』（日本語版、ロシア語版）は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
 - ・Restoration and Conservation of Immovable Heritage Damaged by Natural Disastersは、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『遺跡はなぜ残ってきたか』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成21年度成果報告書』は、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究（②セ02）の一環として実施した。
 - ・『日中共同研究 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究2009』は、陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究（②セ03）の一環として実施した。
 - ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2009』は、敦煌壁画の保護に関する共同研究（②セ04）の一環として実施した。
 - ・Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『パーミヤーン遺跡の地下探査 第1次および第2次ミッションの成果』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『古代ペンジケントの壁画と彫塑—古代ペンジケントの壁画の画法と保存—古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2008年度（第1次～4次ミッション）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度（第1次ミッション）—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『染織品の保存と活用』（ビデオDVD）は、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。

- ・『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』は、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
- ・Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategiesは、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
- ・『鈴木敬寄贈図書目録』は、専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③情03）の一環として実施した。
- ・『国際資料室蔵書目録』は、国際資料室の整備（②セ08）の一環として実施した。
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[6] カザフスタン』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[7] キルギス』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[8] トルクメニスタン』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[9-a1] フランス』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。

東京文化財研究所75年史編纂事業（◎情04-09-4/4）

本報告書は、東京国立文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1930（昭和5）年6月に設立されてから2005（平成17）年で75周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには独立行政法人国立博物館との統合を迎えた2007（平成19）年4月1日までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、すでに刊行された「同 資料編」（平成20年3月）とともに当研究所七十五年史とするものである。

同報告書刊行のための所内編集委員は、下記の通りである。
井上さやか、岡田健、川野邊渉、佐野千絵、塩谷純、高桑いづみ、高柳明、田中淳、中野照男、中村明子、中村節子、山梨絵美子

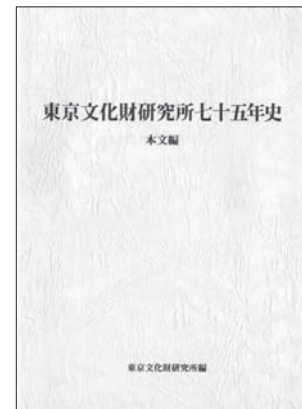
（五十音順、2009年10月現在）

分担執筆者：石崎武志、稲葉信子、井上さやか、江村知子、岡田健、勝木言一郎、加藤雅人、川野邊渉、北野信彦、朽津信明、佐野千絵、皿井舞、塩谷純、清水真一、高桑いづみ、田中淳、津田徹英、土屋貴裕、中野照男、中村明子、中村節子、中山俊介、早川典子、二神葉子、三浦定俊、森井順之、山内和也、山梨絵美子、綿田稔（五十音順）
建物外観等の撮影：城野誠治、鳥光美佳子

「本文編」は、以下の内容で平成21年度に刊行した。（B5版、総ページ607頁、2009年12月25日発行、一部市販）

- I 沿革
- II 管理運営
- III 調査研究
 - 1 企画情報部
 - 2 無形文化遺産部
 - 3 保存修復科学センター
 - 4 文化遺産国際協力センター
- IV 現況

関連資料（関連団体、追想、物故研究員等略歴、東京文化財研究所年表、機構変遷図、参考文献一覧）



所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*◎情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（◎情05）の一環として実施した。詳細は、63頁を参照。

平成20年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（◎美04-09-4/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成20年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成20年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった。

2007（平成19）年美術界年史

⑥刊行物 Area19

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者



『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り398号、399号、400号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』398号（21年度第1冊／2009年8月刊行）

（論文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（下）」

（論文）顔娟英（塚本麿充訳）「『日本画』の死
—日本統治時代における美術発展の困難—」

（研究ノート）田中淳「試論・『新しい女』と『風船を持つ女』

—萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現—」

（研究資料）津田徹英「脱活乾漆造 菩薩立像」

（研究資料）菊屋吉生、塩谷純「珊瑚会資料集（補遺その二）」

『美術研究』399号（21年度第2冊／2010年1月刊行）

（論文）土屋貴裕「鉄心斎文庫蔵「伊勢物語画帖」について」

（論文）塩谷純「川端玉章の研究（二）」

（研究ノート）江村知子「追憶の色—遊楽図の人物風俗描写に関する一考察—」

（展覧会評）「朝鮮王朝の絵画と日本」（江村知子）

『美術研究』400号（21年度第3冊／2010年3月刊行）

（論文）雷玉華、李裕群、羅進勇（濱田瑞美訳）「四川汶川出土の南朝仏教石造像」

（論文）綿田稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考—名嶋城御成書院から福岡城対面所へ—」

（研究ノート）森下正昭「コンテンポラリー・アートに関する美術館の新たな取り組み

—英国テート・ギャラリーとインカのアーティスト・インタビュー・アーカイブ—」

（書評）「吉田千鶴子『近代東アジア美術留学生の研究』

—トランスナショナル・アーカイブを想像する—」（朴昭炫）

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-09-4/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。



『無形文化遺産研究報告』第4号

宮田繁幸「実施段階に入った無形文化遺産保護条約」

松山直子「アジア太平洋地域の無形文化遺産

—代表一覧表記載案件の分類と専門機関の役割—

星野紘「無形文化遺産保護の挑戦

—日本国内およびアジア太平洋諸国を訪れて—

森下愛子「近代の京焼から『伝統』を考える

—近代京都の陶芸家における古典学習について—

深津裕子「染織技術の記録・保護への取り組み—製織・製糸・縫製を中心に—

俵木悟「大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態」

服部比呂美「八朔の馬節供 西讃地方の団子馬製作を中心に」

金子健「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真（二）」

飯島満「国立音楽大学附属図書館寄贈竹内道敬旧蔵音盤目録（4）」

『無形民俗文化財研究協議会報告書』（⑥無04-09-4/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第4回にあたる本年度は「無形の民俗の伝承と子どもの関わり」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



テーマ「無形の民俗の伝承と子どもの関わり」

I. 宮田繁幸「序にかえて」

II. 俵木悟「趣旨説明」

III. 報告

*報告1 佐川和裕「大磯の七夕行事の継承の取り組み」

*報告2 北村尚幸「大鹿歌舞伎の継承の取り組み」

*報告3 松本保之「伝統文化子ども教室事業の現状と課題について」

*報告4 金 利紀「直根小学校における民俗芸能への取り組み」

*報告5 小谷竜介「餅・団子を通した様々な「発見」

～東北歴史博物館が小学生と行った民俗調査から～

IV. 総合討議

V. 参考資料

VI. アンケート結果

VII. あとがき

「保存科学」49号の出版 (©保04-09-4/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。



『保存科学』第49号

間淵創、木川りか、佐野千絵

「文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について」

早川泰弘、城野誠治、黒田泰三

「国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析」

北野信彦、本多貴之、佐藤則武「初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査」

脇谷草一郎、高妻洋成、肥塚隆保

「土質遺構露出展示保存のための基礎的研究—土中水のポテンシャル制御による遺構安定化の試み—」

木川りか、佐野千絵、高島浩介、喜友名朝彦、杉山純多、安部倫子、中右恵理子、坪倉早智子、早川典子、川野邊渉、石崎武志

「高松塚古墳石室内、取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験」

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析 (2)」

—墳丘部表面の植生等の変化が石室内温度変動に与える影響—

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析 (3)」

—吸放熱パネルへの送水温度および入室が石室内温湿度変動に与える影響—

三村衛、長屋淳一、石崎武志「高松塚古墳墳丘部の動的解析」

宇野朋子、薛平、高林弘実「敦煌莫高窟第285窟における壁画の劣化への光環境の影響」

吉田直人「発光ダイオードを光源とした赤外線撮影について」

犬塚将英「文化財のX線透過撮影時における照射条件評価法の開発」

早川泰弘、太田彩「伊藤若冲『動植綵絵』に見られる青色材料」

呂俊民、佐野千絵「文化財保存のための保管空間に影響するガス放散体の簡易試験法」

吉川也志保、吉田直人、木川りか

「Foxing から分離された真菌ならびに foxing 要因菌の色と蛍光スペクトルに関する考察」

森井順之、川野邊渉、柏谷博之「重要文化財及び史跡 熊野磨崖仏における磨崖仏表面のクリーニング」

原田正彦、本川りか、小峰幸夫、藤井義久、藤原裕子、川野邊渉「輪王寺本堂の虫害破損について」

小峰幸夫、原田正彦、野村牧人、木川りか、山野勝次、藤井義久、藤原裕子、川野邊渉

「日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバンムシの発生状況に関する調査について」

藤井義久、藤原裕子、原田正彦、木川りか、小峰幸夫、川野邊渉

「穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察 (第2報)」

—日光輪王寺における虫害を事例として—

鳥越俊行、木川りか、原田正彦、小峰幸夫、今津節生、本田光子、川野邊渉

「X線CTによる被害材の調査と虫害の活動検出への応用」

吉田直人、高妻洋成、降幡順子、辻本与志一、間淵創、早川泰弘、佐野千絵、三浦定俊、肥塚隆保

「デジタル画像撮影による高松塚古墳壁画表面状態の調査」

佐野千絵、西島美由紀、喜友名朝彦、木川りか、杉山純多

「高松塚古墳石室内より分離された主要な微生物のギ酸、酢酸生成能」

木川りか、高鳥浩介、久米田裕子、辻本与志一、川野邊渉、佐野千絵、宇田川滋正、建石徹

「高松塚古墳壁画修理施設における生物対策について」

木川りか、佐野千絵、喜友名朝彦、立里臨、杉山純多

「高松塚古墳、キトラ古墳石室内の微生物分離株のアルコール系殺菌剤資化性試験」

高鳥浩介、久米田裕子、木川りか、佐野千絵「高松塚古墳石室および周辺部由来カビの薬剤に対する馴化」

高鳥浩介、高鳥美奈子、久米田裕子、木川りか、佐野千絵

「高松塚古墳石室および周辺部由来カビの温度帯による生理的性状—発育性および色調変化—」

木川りか、佐野千絵、喜友名朝彦、立里臨、杉山純多、高鳥浩介、久米田裕子、森井順之、早川典子、川野邊渉「キトラ古墳の微生物調査結果と微生物対策について（2009）」

松岡秋子、島津美子、邊牟木尚美、影山悦子、山内和也

「タジキスタン国立古代博物館が所蔵するソグディアナ出土壁画の保存修復

—カライ、カフカハ遺跡出土壁画KH 7-1の事例—」

佐藤香子、高林弘実、柴勃隆、丁淑君、張建林、岡田健

「唐代節愍太子墓過洞に描かれた人物像壁画の彩色材料と制作技法に関する調査」

吉田直人、佐野千絵、石崎武志

「展示公開施設の館内環境調査報告—平成20年度—」

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (©美07-09-1/1)

2009年12月6日から8日に東京国立博物館平成館大講堂で開催した国際研究集会（企画情報部担当）の報告書を下記の内容で刊行した。なお、本書から英文を除いた内容が平凡社から『“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために』として市販されている。



『“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために—』（A5判、456頁）

【目次】

鈴木規夫「刊行にあたって」

シンポジウムの記録

〔基調講演1〕

塩谷純「モノより思い出、思い出よりモノ」

〔セッション1 モノ/“オリジナル”と対峙する〕

何傳馨「二点の中国古書蹟における光学的調査—懷素『自叙帖』と孫過庭『書譜』」

マシュー・P・マッケルウェイ「室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連」

浅野秀剛「肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル」

岡塚章子「写真—オリジナルという認識の共有」

松本透「現代美術とオリジナル」

討議— 司会：相澤正彦、山梨絵美子

〔セッション2 モノの彼方の“オリジナル”〕

タイモン・スクリーチ「おじいさんの斧—日本文化史におけるオーセンティシティと再生

—宇治橋を例に—」

津田徹英「『諸説不同記』と『現図』胎蔵曼荼羅」

シェリー・ファウラー「燈明寺『六』観音像をさぐる」

飯島満「古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合」

綿田稔「雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪」

⑥刊行物 Area20

皿井舞「仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる」

清水重敦「更新のオーセンティシティー—木造建築におけるオリジナル」

討議二 司会：勝木言一郎、森下正昭

〔基調講演2〕

加藤哲弘「オリジナルとその保存—文化財アーカイブの可能性と限界」

〔セッション3 “オリジナル”を伝えること〕

マーク・バーナード「オリジナルに戻る—金剛經の保存」

赤尾栄慶、マーク・バーナード、中野照男「鼎談 敦煌文書とアーカイブ」

山梨絵美子「サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想」

江村知子「遊興文化の残映—彦根屏風の光学調査と情報化」

田中修二「屋外彫刻調査保存研究会の活動について」

総合討議 司会：佐野みどり、田中淳

塩谷純「あとがき」

Message

Statement of Intent

Program

Organizing Committee, etc.

Abstracts

Ho Chuan-hsing, An Optical Investigation into Two Masterpieces of Ancient Chinese Calligraphy: Huai-su's "Autobiography" and Sun Kuo-t'ing's "Essay on Calligraphy"

Matthew P. McKelway, Muormachi Period Kano Fan Paintings and Song Dynasty "Originals"

Timon Screech, Grandfather's Axe: Authenticity and Recreation in Japanese Cultural History
The Case of Uji Bridge

Sherry Fowler, Locating Tōmyōji and its "Six" Kannon Sculptures

Mark Barnard, Getting back to the "original": the conservation of the Diamond Sutra

『博物館資料の保存環境』 出版のための準備 (⑥保06-09-1/2)

大学における「博物館に関する科目」の改正案に対応して、博物館・美術館保存担当学芸員研修資料から保存環境に関する部分を抜き出し、副教材としての利用を見込み出版する予定である。読者層としては、博物館学取得希望の大学学部生、教員、学芸員を想定している。本年度は編集会議を行い、この教材が取り扱う内容、構成及びレイアウトに関する検討を行った。来年度は、以下の章立てで教材を執筆し、出版する予定である。

第1章 総論

第2章 温湿度

第3章 光と照明

第4章 大気汚染・室内汚染

第5章 生物被害とIPM

第6章 災害の防止と対策

『黒田清輝フランス語資料集』(①美01の一環として実施)

「東アジアの美術に関する資料学的研究」の平成21年度の研究成果の報告書として、当研究所が保存している黒田清輝宛のフランス語書簡全279件と留学中に書かれたフランス語日記(1888年、東京国立博物館蔵)の原文と翻訳、及び現地調査写真と研究論文によって構成した『黒田清輝フランス語資料集』(四六判、総ページ625頁、発行：平成22年3月25日、一部市販)を刊行した。同報告書の内容は、下記の通りである。



口絵

田中淳「序論—黒田清輝フランス語資料集のために」

Préface

黒田清輝日記(翻刻・翻訳・校注：基信祐爾 [九州国立博物館])

Journal et Brouillons de Lettres de Kuroda Seiki

黒田清輝宛欧文書簡(翻刻・翻訳：小山ブリジット [武蔵大学]、奥田勝彦)

Correspondance Adressée à Kuroda Seiki

論文

臺信祐爾「黒田清輝の仏文手紙控えと日記をめぐる」

A propos du carnet rédigé en français par Kuroda Seiki en 1888

小山ブリジット(奥田勝彦訳)「黒田清輝への新たなまなざし」

Un nouveau regard sur Kuroda Seiki

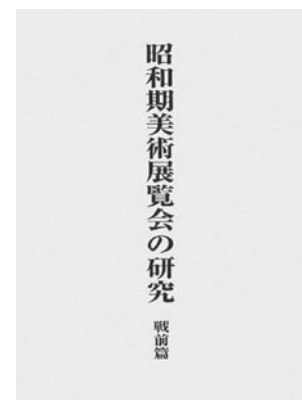
人名索引

編集：綿田稔・塩谷純

フランス・ベルギー現地撮影：城野誠治

『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』(①美02の一環として実施)

企画情報部のプロジェクト「近現代美術に関する総合的研究」の一環として刊行した。平成17年度に刊行した『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』を基礎に、所内外の研究者による論文26篇で5章にわたって構成、昭和戦前期の展覧会や美術団体の動向を軸に、絵画や彫刻、版画、写真、工芸等の諸ジャンルを対象とした。論文題名、執筆者等は、下記の通りである。(B5判、本文560頁)



総論

田中淳「『統制』と『国際』の時代—戦中期の有島生馬を中心に—」

田中修二(大分大学)「戦前の県展—展覧会の中央と地方—」

後小路雅弘(九州大学)「昭和前半期の美術 植民地・占領地の美術」

展覧会の内側／外側

藤井素彦(高岡市美術館)「『婦女子』の日本画—昭和戦前期官展の美人画を介して—」

塩谷純「床の間の上の裸婦—小林古径《髪》より—」

寺尾健一(工芸史家)「『工芸展覧会』としての商工展」

本橋浩介(佐倉市立美術館)「国民性の発露としての工芸

—初期帝国美術院展覧会第四部(美術工芸部)における作家意識と国民工芸創出への諸相—

村山万介(台東区立朝倉彫塑館)「昭和戦前期の官展彫塑年代記 并朝倉塾」

⑥刊行物 Area21

大谷省吾（東京国立近代美術館）「銀座紀伊國屋ギャラリーという場所」

江川佳秀（徳島県立近代美術館）「満洲国美術展覧会をめぐって」

美術をめぐる集団と個

喜多孝臣（早稲田大学會津八一記念博物館）「矢部友衛とプロレタリア美術研究所」

平井章一（国立新美術館）「1930年代の大阪におけるヨーロッパ前衛絵画の受容と展開

—石丸一と吉原治良を中心に」

西山純子（千葉市美術館）「日本版画協会—その設立から終戦時まで」

長嶋圭哉（新潟県立近代美術館）「青龍社と『会場芸術』」

菊屋吉生（山口大学）「前衛主義と伝統主義の相克—「成層絵画研究集団」の成立と変遷」

足立元（東京芸術大学）「小野佐世男—逆説の漫画家・空談家」

メチエとの葛藤

小林俊介（山形大学）「梅原龍三郎の絵画技術について—透明画法と不透明画法」

杓沢耕介（横須賀美術館）「モニュメントとしての木彫—昭和戦前期の佐藤朝山・平櫛田中」

光田由里（渋谷区立松涛美術館）「昭和前期の美術界と写真作品」

谷口英理（東京芸術大学）「機械的視覚メディアの『影響』からみる昭和10年代の前衛絵画

—瀧口修造『影響について』（昭和14年）を手掛かりに」

敷田弘子（東京芸術大学大学美術館）「最小限住宅とその室内設備に関する—考察

—型而工房とそのメンバーのデザイン活動から」

戦時下と美術

河田明久（早稲田大学）「描く兵士—日中戦争と美術の『分際』」

澤田佳三（新潟県立万代島美術館）「絵画館と壁画—東京府養正館と国史絵画」

吉良智子（千葉大学）「戦争美術展における『銃後』図像に関する試論」

齊藤祐子（筑波大学）「昭和戦前期彫刻における公共的モニュメントの展開

—第三部会・新構造社・九元社・新制作派協会の実践」

滝沢恭司（町田市立国際版画美術館）「南進政策と美術—南洋美術協会をめぐって」

資料

本研究関係美術展覧会年表（喜多孝臣編）

本研究関係美術団体相関図（足立元編）

『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—近赤外線画像編—』（①情01の一環として実施）

平成16年から17年にかけて平等院と共同で行われた鳳凰堂仏後壁前面画の調査資料目録の第二冊目。カラー・蛍光・赤外線による撮影のうち、平成21年度は近赤外線画像編を刊行。分割撮影した全ての部分画像を掲載している。

神居文彰「色彩の中心にあるもの」

鈴木規夫「本書の刊行にあたって」

目次

撮影エリア目録

分割画像



『春日権現験記絵披見台 共同研究調査報告書』(①情01の一環として実施)

平成20年度に行った奈良国立博物館との共同研究の成果のうち、春日大社が所蔵する春日権現験記絵巻披見台についての光学調査の報告書を刊行。各扇のカラー画像・蛍光画像、部分のカラー画像・蛍光画像を収載するとともに、その結果について解説している。

- 花山院弘匡「刊行にあたって」
- 湯山賢一「刊行にあたって」
- 鈴木規夫「刊行にあたって」
- 目次
- 各扇カラー画像・蛍光画像(一扇～六扇)
- エリアマップ
- 部分カラー画像・蛍光画像(一扇～六扇)
- 披見台裏面
- 蛍光X線分析ポイント
- 早川泰弘・城野誠治「春日権現験記絵披見台の光学調査」
- 谷口耕生「春日権現験記絵披見台の概要」
- 江村知子「春日権現験記絵披見台の表現について」
- 土屋貴裕「『春日権現験記絵披見台』と中世景物画 試論」
- 津田徹英「春日権現験記絵披見台の金具について」
- 沢田むつ代「背面に使用されている綾織物」



『伊藤若冲 動植綵絵』(①保01の一環として実施)

宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵される伊藤若冲 動植綵絵全三十幅に関する調査報告書。動植綵絵全三十幅は平成11～16年に修理が行われ、その修理過程および修理完了後に宮内庁三の丸尚蔵館と共同で、描写技法・彩色材料に関する詳細な科学的調査を実施した。調査研究編と図版編の2分冊の構成で、調査研究編では修理過程でしか見ることのできない裏彩色の画像や1000ポイント近くの蛍光X線分析の結果を掲載しながら、各幅の彩色材料や描写の特徴を解説。図版編では全三十幅の全図とともに、300カット以上の高精細部分画像を収録。B4版、調査研究編110ページ、図版編319ページ(2010年1月刊行)。

調査研究編

- 太田彩「若冲、描写の妙技」
- 動植綵絵 全30幅
- 早川泰弘「伊藤若冲『動植綵絵』の彩色材料について」
- 城野誠治「撮影を終えて」

図版編

- 辻惟雄「『動植綵絵』の不可思議」
- 動植綵絵 全30幅
- 太田彩「伊藤若冲と『動植綵絵』」



⑥刊行物 Area21

『2009日韓共同研究報告会—石造文化財の保存と修復—予稿集』（①修01の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。

LEE, Sun-Myung, SHIN, Eun-Jeong, LIM, Bo-A and DO, Min-Hwan

Investigation and Analysis on Conservation Environment of the Gyeongju Seokguram Grotto (National Treasure No. 24), Korea

朽津信明「屋内と屋外での来待石製石塔の風化のちがい」

CHO, Ji-Hyun, KIM, Ji-Young, MORII, Masayuki, KIM, Sa-Dug and LEE, Chan-hee

Quantitative Deterioration Assessment and Contaminant Analysis of the Usuki Stone Buddha Statues in Oita, Japan

山路康弘、稗田貞臣、森井順之「赤外線サーモグラフィによる石造文化財の劣化診断」

LEE, Myeong-Seong and KIM, Sa-Dug

Deterioration Diagnosis and Conservation Treatment of the Jincheon- sagongnimaeyeoraepsang (Stone Relief of Standing Buddha in Sagok-ri, Jincheon), Korea

HAN, Min-Su, KIM, Jae-Hwan, LEE, Jae-Man, LEE, Jang-Jon and LEE, Myeong-Seong

A Field Application Study of Conservation Materials for Stone Cultural Properties on Tuff Sites (I) – Focused on the Unju Temple and Usuki Stone Buddhas –

森井順之、川野邊渉、柏谷博之「殺菌灯を用いた磨崖仏着生生物除去手法の実用化」



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2009年度』（①修03の一環として実施）

刊行にあたって

カラー口絵

<調査研究報告>

早川典子「合成樹脂を用いて修理された絵画の現状調査」

神谷嘉美、北野信彦「複層構造を有する改質漆塗料の屋外曝露試験」

北野信彦、山口加奈子「伝統的な漆器生産技術に関する基礎調査（Ⅱ）」

北野信彦、吉田直人「(付章) 初期京焼の材質・技法に関する基礎調査」

加藤雅人、早川典子、菊池理予

「『東京文化財研究所 保存修復資料室所蔵 資料目録』の作成について

(その3)」

<研究会報告>

・講演

本多貴之(明治大学理工学部)「漆塗装の劣化メカニズムを探る」

北野信彦(東京文化財研究所)「建築文化財における漆塗装の歴史」

佐藤則武(日光社寺文化財保存会)「日光社寺建造物群における漆塗装の修理」

西和彦(文化庁)「建築文化財における塗装修理の考え方」

・総合討論

・アンケート結果



『Textbook Japanese Lacquer -Intermediate- 研修用テキスト漆—中級編—』(⑤修05の一環として実施)

Introduction

1. History of Urushi

- 1-1 The History of Urushi Objects in Japan –from the Cradle to the Medieval Period
- 1-2 Urushiware in Modern Period –Spread of Makie and Master Craftsmen of Various Schools
- 1-3 The History and the Characteristics of Exported Urushiware
- 1-4 History of Japan and Urushiware (Outline)

2. Urushi science

- 2-1 Urushi chemistry
- 2-2 Investigation of Urushi and Urushiware
- 2-3 Deterioration of and Damage to Urushiware
- 2-4 Storage and Exhibition of Urushiware

3. Traditional Materials and Tools of Urushi

- 3-1 Materials for Urushiware
- 3-2 Tools for Working with urushi

4. Traditional Urushi Techniques

- 4-1 Techniques for making the substrate
- 4-2 Techniques for decoration

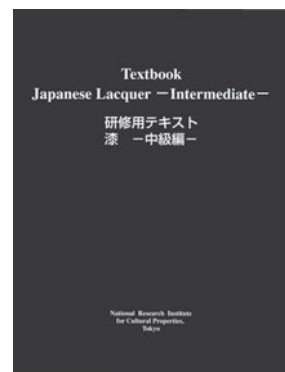
5. Traditional Method for the Manufacture of Urushiware (Folk Date on Techniques, Materials and Tools)

6. Conservation and Restoration of Urushi

- 6-1 Concept concerning the Conservation of Urushi and Preliminary Investigation
- 6-2 Techniques
- 6-3 Conservation of Exported Urushiware and its Problems

7. Urushi coating on a building and its restoration

- 7-1 History of Urushi Coating on Wooden Architecture
- 7-2 Repair and Reproduction of Konjikido at Chusonji Temple
- 7-3 Application of Urushi in the Restoration of Historical Buildings at Nikko



『Urushi 2009, International Course on Conservation of Japanese Lacquer : 国際研修「漆の保存と修復」2009』(⑤修05の一環として実施)

On the Publication of the Report on Urushi 2009

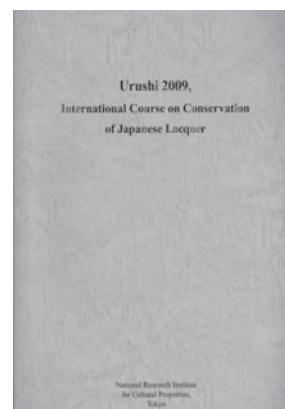
Schedule

List of Participants

List of Lecturers

Lectures

- 1 KITANO Nobuhiko, Introduction to the Course
- 2 TAKAHASHI Takahiro, History of Urushi Objects in Japan 1
- 3 KITANO Nobuhiko, History of Urushi Objects in Japan 2
- 4 MIYAKOSHI Tetsuo, Chemical Structure and Analysis of Urushi



⑥刊行物 Area21

- 5 KITANO Nobuhiko, Application of Urushi on Buildings
 - 6 SATO Noritake, Urushi Coating on the Temples and Shrines of Nikko
 - 7 MATSUMOTO Tatsuya, Traditional Urushi Techniques
 - 8 YAMASHITA Yoshihiko, Restoration of Urushi Objects in Japan
 - 9 YAMASHITA Yoshihiko, Issues Related to the Restoration of Exported Urushiware
 - 10 TAKEUCHI Namiko, Visit to the Tokyo National Museum
 - 11 YAMASHITA Yoshihiko, Practical Work
- Study Tour
Discussion

『International Training Program :“The Preservation and Restoration of Urushiware” : 国際研修「漆工品の保存と修復」』（②修05の一環として実施）

Introduction

- 1 KITANO Nobuhiko,
International Training Program “The Preservation and Restoration of
Urushiware”
- 2 YAMASHITA Yoshihiko, Training Program I (Practical Work)
- 3 KITANO Nobuhiko,
Training Program II (Study Tour & Fieldwork)
- 4 Ursel Adda Gæner & Balazs Lencz,
Post-Session : Presentation by the Trainees
- 5 KITANO Nobuhiko, Summary and Future Challenges
- 6 Ursel Adda Gæner & Balazs Lencz, Trainees' Reports



『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成21年度（絵画／工芸品）』（②修04の一環として実施）

平成21年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。

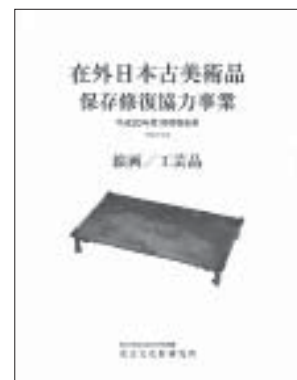
報告書の刊行にあたって

在外日本古美術品保存修復協力事業報告

〔絵画篇〕

カラー口絵

1. 松に孔雀図屏風
山口聰太郎「修理報告」、江村知子「作品解説」
2. 星曼荼羅
君嶋隆幸・中村隆博「修理報告」、津田徹英「作品解説」
3. 虫歌合絵巻
澤田篤志「修理報告」、土屋貴裕「作品解説」
4. 遊女立姿図
君嶋隆幸・中村隆博「修理報告」、塩谷純「作品解説」



〔工芸品篇〕

カラー口絵

1. 「楼閣山水蒔絵箱」 山下好彦
2. 「住吉蒔絵文台」 松本達弥
3. 「花鳥紋章蒔絵楯」 松本達弥
4. 「花樹鳥獸蒔絵螺鈿洋櫃」 松本達弥・北村繁

(海外工房における修復およびワークショップ) (ベルリン技術博物館)

(海外工房における修復およびワークショップ) (ケルン東洋美術館)

『在外日本古美術品保存修復協力事業 工芸品(漆工品)の修理報告ダイジェスト版』(②修04の一環として実施)

刊行にあたって

北野信彦「工芸品(漆工品)修理報告の概要」

カラー口絵

1. 北村昭斎「大般若経厨子(クリーブランド美術館:アメリカ合衆国)」
(H11年度修復事業)
2. 勝又智志「鳳凰文蒔絵螺鈿矢筒(メトロポリタン美術館:アメリカ合衆国)」
(H11年度修復事業)
3. 山下好彦「樹下鳥獸蒔絵螺鈿洋櫃(ギメ美術館:フランス)」
附:早川典子、朽津信明「輸出漆器の修理材料の分析」
附:早川泰弘、平尾良光「樹下鳥獸蒔絵螺鈿洋櫃の蛍光X線分析」
附:早川典子「ギメ洋櫃螺鈿接着剤(オリジナル)分析報告」(H11,12年度修復事業)
4. 山下好彦「花鳥螺鈿食籠(ベルリン東洋美術館:ドイツ)」(H11,12年度修復事業)
5. 勝又智志「風景蒔絵ナイフアーン(アシュモリアン美術館:イギリス)」(H12,13年度修復事業)
6. 北村昭斎「移鞍(メトロポリタン美術館:アメリカ合衆国)」(H15年度修復事業)
7. 北村繁「猩々漆絵油壺(クリーブランド美術館:アメリカ合衆国)」(H15,16年度修復事業)
8. 田口義明「黒韋腰取緘筋兜(メトロポリタン美術館:アメリカ合衆国)」
附:早川泰弘「黒韋腰取緘筋兜の蛍光X線分析結果」(H16,17年度修復事業)
附:バラシュ・レントツ、松原美智子「兜の基礎知識 兜の用語解説」(H15年度修理報告書所収)
9. 松本達弥「山水人物蒔絵筆筥(スペイン国立装飾美術館:スペイン)」(H17,18年度修復事業)
10. 山下好彦「源氏九曜紋蒔絵箔箱(フレンツ・ホップ東洋美術館:ハンガリー)」(H19年度修復事業)



『鉄構造物の保存と活用』(①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

はじめに

刊行にあたって

目次

中山俊介(東京文化財研究所)「鉄構造物の保存と修復」

中内康雄((財)文化財建造物保存技術協会)

「—鉄構造物等の保存に関する事例—」



⑥刊行物 Area21

津村泰範（（株）文化財保存計画協会）「旧万田坑施設第2 豎坑櫓の保存修理」
新谷憲生（日本ペイント（株））「鉄建造物の保存と修復について」
質疑応答
編集後記

Preservation and Utilization of Aircraft Heritage (①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

Foreword

About This Book

Table of Contents

Nakayama Shunsuke

Conservation and Utilization of Aircraft Heritage

Hirayama Sukenari

On the Preservation of a Type Zero Reconnaissance Seaplane

Nagashima Hiroyuki

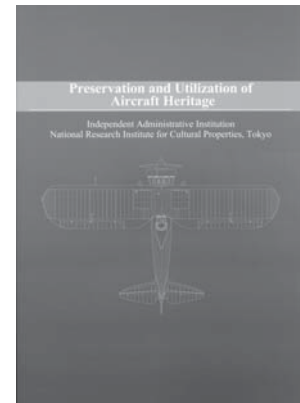
Preservation of Aircraft as Cultural Properties- Talking Type 91
Fighter as an Example of Aviation Heritage-

Dave Morris

Aircraft Used During World War II: Exhibits in Museum, Antiques, or Monuments?

Comments

Editor's Postscript



『中央アジアの文化遺産と日本の貢献』(②セ01の一環として実施)

地域ワークショップ専門家会議報告書(2008年3月12日-16日、タシュケント・サマルカンド)

本書は、2008年3月12日から16日まで、ウズベキスタン共和国のタシュケントとサマルカンドにおいて東京文化財研究所、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会、ユネスコ・タシュケント事務所が主催した地域ワークショップ専門家会議「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」の報告書(日本語版)である。(2010年2月刊行)

1. プログラム／参加者一覧

1.1. プログラム

1.2. 参加者一覧

2. 基調講演

2.1. 基調講演(1) 前田耕作(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター客員研究員)

「中央アジア・シルクロードと日本」

2.2. 基調講演(2) 山内和也(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター地域環境研究室長)

「中央アジアの文化遺産保存における日本の貢献」



- 2.3. 基調講演 (3)
- シャヒン・ムスタファイエフ (中央アジア国際研究所所長)
「中央アジア文化遺産研究における国際協力の展望」
3. セッション1 文化遺産保護のための公的制度：文化財の保護法および保存管理
- 3.1. 報告 (1) 2007~2009年度「文化遺産」事業計画 (抜粋)
2007年10月10日カザフスタン共和国政府決議として承認 (No.1203)
- 3.2. 報告 (2) パラハン・カルィムシャコヴァ (キルギス共和国文化情報省歴史文化遺産部長)
「キルギス共和国の文化遺産の保護を行う国家機関と社会機関」
- 3.3. 報告 (3) ムザファル・アジゾフ (タジキスタン文化省歴史文化遺産保護活用局長)
「タジキスタンにおける文化遺産保存の問題」
- 3.4. 報告 (4) ラフシャンベク・A・マンシロフ (ウズベキスタン共和国文化・スポーツ省 文化遺産保護局責任者)「ウズベキスタンにおける文化遺産の保護」
- 3.5. 報告 (5) ムハマド・マメドウ (トルクメニスタン歴史文化記念物保護研究修復局長)
「トルクメニスタンの歴史文化記念物の調査と保存」
- 3.6. 報告 (6) 稲葉信子 (東京文化財研究所文化遺産国際協力センター国際企画情報研究室長)
「日本の文化遺産保護制度の歴史と特徴：人の居住環境に関わる遺産 (Built Heritage)の保護を中心に」
4. セッション2 記念物および遺跡の保護における現状と課題：遺跡および遺物の保存と公開
- 4.1. 報告 (7) カール・M・バイパコフ (カザフスタン考古学研究所所長)、ドミトリイ・A・ヴォヤキン (カザフスタン考古学研究所記録考古保存局長)「カザフスタンの考古学遺産の調査、保存および活用」
- 4.2. 報告 (8) バキト・E・アマンバエヴァ (キルギス共和国科学アカデミー歴史研究所考古民族局長)
「キルギス共和国における歴史文化遺産の研究と保護、現状、問題点およびその解決への展望」
- 4.3. 報告 (9) ユスフショ・ヤクボフ (タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族学研究所考古局長)「タジキスタン考古学遺跡の初期段階の保存」
- 4.4. 報告 (10) ヌルゴザル・S・ビヤシモヴァ (トルクメニスタン歴史研究所歴史 (考古) 局長)
「アクサライ・ディング遺跡の考古学調査、修復および科学」
- 4.5. 報告 (11) シャキル・ピダーエフ (ウズベキスタン共和国科学アカデミー考古学研究所長)
「ウズベキスタンの考古学遺跡と文化遺物の保存、修復の試み」
- 4.6. 報告 (12) 清水真一 (東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長)
「日本における記念建造物および遺跡整備の現状と課題」
5. 事例
- 5.1. 報告 (13) 西村康 (ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所 (ACUU奈良) 所長)
「ACCU奈良のアジア太平洋地域における文化遺産保護と修復への貢献」
- 5.2. 報告 (14) クウォブル・アブドゥラシド (タシュケント建築研究所講座主任)
「建造物の耐久性確保を目的とした構造の工学的分析、技術的状态の推定および構造の検討」
- 5.3. 報告 (15) Kato Kyuzo, Emeritus Professor, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, The Excavation on the North Hill of Kara-Tepe (1985-1989)
- 5.4. 報告 (16) Shokirjon Pidayev, Director, Institute of Archaeology, Academy of Sciences & Kato Kyuzo, Emeritus Professor, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, The Excavation on the North and West (Central) Hill of Kara-Tepe
6. 最終提言

Совещание региональных специалистов: Культурное наследие Центральной Азии и вклад Японии, Ташкент и Самарканд, 12-16 марта 2008 года(◎セ01の一環として実施)

本書は、2008年3月12日から16日まで、ウズベキスタン共和国のタシュケントとサマルカンドにおいて東京文化財研究所、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会、ユネスコ・タシュケント事務所が主催した地域ワークショップ専門家会議「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」の報告書（ロシア語版）である。（2010年2月刊行）



1. Программа, Список участников

1.1. Программа

1.2. Список участников

2. Основные доклады

2.1. Основной доклад (1) Регион Средней Азии, Великий Шелковый путь и Япония: Косаку Маеда

2.2. Основной доклад (2) Культурное наследие Центральной Азии и вклад Японии: Казуя Ямаучи

2.3. Основной доклад (3) Перспективы международного сотрудничества в области изучения культурного наследия Центральной Азии: Шахин Мустафаев

3. Сессия 1: Государственные и общественные организации, занимающиеся сохранением культурного наследия. Законы по консервации и охране культурных ценностей

3.1. Доклад (1) Программа «Культурное наследие» на 2007-2009 годы

3.2. Доклад (2) Государственные и общественные организации, занимающиеся сохранением культурного наследия в Кыргызской Республике: Барахан Карымшакова

3.3. Доклад (3) Вопросы сохранности культурного наследия в Таджикистане: Музаффар Азизов

3.4. Доклад (4) Сохранение памятников культурного наследия в Узбекистане: Равшанбек А. Мансуров

3.5. Доклад (5) Изучение и сохранение памятников истории и культуры Туркменистана: Мухаметдурды Мамедов

3.6. Доклад (6) История и особенности системы охраны культурного наследия в Японии Охрана наследия в среде обитания человека (архитектурного наследия): Нобуко Инаба

4. Сессия 2 Существующие проблемы охраны объектов культурного наследия. Сохранение и консервация мест раскопок и культурных ценностей

4.1. Доклад (7) Изучение, сохранение и использование археологического наследия в Казахстане: Карл М. Байпаков, Домитрий А. Воякин

4.2. Доклад (8) Исследование и охрана историко-культурного наследия в Кыргызской Республике: современное состояние, проблемы, возможные пути их решений: Бакыт Э. Аманбаева

4.3. Доклад (9) Первичная консервация на археологических памятниках Таджикистана: Юсуфшо Якубов

44. Доклад (10) Археологическое исследование, восстановление и консервация памятника Аксарайдинг: Нургозель С. Бяшимова
45. Доклад (11) Опыт Консервации, Реставрации Археологических Памятников И Предметов Культурного Наследия Узбекистана: Шокиржон Пидаяев
46. Доклад (12) Современное положение и задачи в области сохранения исторических зданий и мест археологических раскопок в Японии: Синъичи Симизу
5. Кейс-метод
 51. Доклад (13) Деятельность Отдела сотрудничества по консервации культурного наследия, Азиатско-Тихоокеанского культурного центра ЮНЕСКО в области охраны и восстановления культурного наследия в азиатско-тихоокеанском регионе: Ясуси Нисимура
 52. Доклад (14) Оценка технического состояния и разработка конструкций по обеспечению долговечности памятников архитектуры Узбекистана : Кобул С. Абдурашидов
 - 5.3. Доклад (15) The Excavation on the North Hill of Kara-Tapa (1985-1989): Kyuzo Kato
 - 5.4. Доклад (16) The Excavation on the North and West (Central) Hill of Kara-Tapa (1998-2007): Shokirjon Pidayev, Kyuzo Kato
6. Заключение
 - 6.1. Заключительные рекомендации

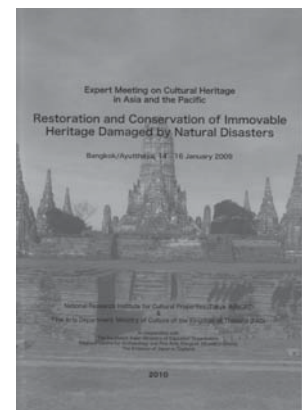
Restoration and Conservation of Immovable Heritage Damaged by Natural Disasters (②セ01の一環として実施)

この報告書は、2009年1月にタイのバンコクおよびアユタヤで行われた、アジア文化遺産国際会議の内容をまとめたものである。(2010年3月発行)

Preface

Table of Contents

1. Programme/List of Participants
2. Orientation Speech
3. Keynote Speech
4. Country Reports
5. Excursion Reports
6. Postscript
7. Photos
8. Reference Materials



『遺跡はなぜ残ってきたか』(②セ01の一環として実施)

この報告書は、第23回国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。(2010年3月発行)

⑥刊行物 Area21

清水真一「序」

朽津信明「開会挨拶・趣旨説明―保存を科学する―」

1. 講演と質疑応答

パオラ・ヴィルジッリ

「アウグストゥスのパンテオンとハドリアヌスのパンテオン

―将来的な保存のための調査、発掘、研究、診断―」

原田雅弘「青谷上寺地遺跡の保存環境」

チェチェック・エカ・プルマナ「インドネシア・南スラウェシの洞窟壁画と
その保存における問題点」

2. 総合討議

朽津信明「研究会総括」

発表者紹介

参加者名簿



『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成21年度成果報告書』(②セ02の一環として実施)

この報告書は、「アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究」による平成21年度分の成果をまとめたものである。(2010年3月発行)

1. 研究費及び研究組織
2. 研究概要
3. 研究成果
4. 資料



『日中共同研究 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究2009』(②セ03の一環として実施)

本報告は、平成21年度に開始された東京文化財研究所と陝西省考古研究院の共同による「陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究」(2年間)の第1年目活動内容の概略を示すものである。

岡田健「はじめに」

1. 岡田健「2009年度活動概要」
2. 岡田健、佐藤香子、高林弘実「2009年度日中共同調査報告」
 - 2.1. 調査対象
 - 2.2. 調査方法
 - 2.3. 調査結果
 - 2.3.1. 後漢・邠王墓出土壁画の分析調査報告



2.3.2. 唐・節愍太子墓出土壁画の分析調査報告
岡田健「おわり」

『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2009』（②セ04の一環として実施）

本報告は、平成18年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第5期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第4年目活動内容の概略を示すものである。

1. 岡田健「はじめに」
 2. 岡田健「2009年度活動概要」
 3. 2009年度日中共同調査報告
 - 3.1 高林弘実、佐藤香子、于宗仁、崔強、張文元
「顕微鏡による第285窟壁画の表面観察」
 - 3.2 高林弘実、佐藤香子、于宗仁、張文元、崔強、范宇権
「蛍光X線分析法による第285窟壁画の彩色の分析調査」
 - 3.3 高林弘実、于宗仁、張文元、崔強、范宇権「第285窟南壁龕楣の図案および彩色の調査」
 - 3.4 宇野朋子、薛平「第285窟の環境調査」
 - 日中共同調査に関連する2009年度の業績一覧
 4. 蘇伯民「総括」
 5. カラー図版
- 執筆者一覧



『古代ペンジケントの壁画と彫塑—古代ペンジケントの壁画の画法と保存—古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存—』中央アジア文化遺産保護報告集第2巻（②セ05の一環として実施）

本書は、П. И. Костров, Техника живописи и консервация росписей древнего Пянджикета, «Живопись древнего Пянджикента», Издательство Академии Наук СССР, Москва, 1954, с. 159-197 (P. I. Костроф著「古代ペンジケントの壁画の画法と保存」『古代ペンジケントの絵画』ソ連科学アカデミー、モスクワ、1954年、pp. 159-197) およびП. И. Костров, Исследование, опыт реконструкции и консервация живописи и скульптуры древнего Пянджикента, «Скульптура и живопись древнего Пянджикента», Москва, Издательство Академии Наук СССР, 1959, с. 139-182 (P. I. Костроф著「古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存」『古代ペ

⑥刊行物 Area21

『ソ連科学アカデミー、モスクワ、1959年、pp. 139-182)の全訳である。(2010年2月刊行)

ごあいさつ

前 言

目 次

凡 例

図版一覧

古代ベンジケントの壁画の画法と保存

古代ベンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存

1. 壁画の修復と屋内処置
2. 壁画の研究
 - 2.1. 第VI区第1室
 - 2.2. 初期に発掘された壁画のその後の研究結果
 - 2.3. 第II区主要広間、南側壁面の壁画(II-B)
 - 2.4. 第I区第10室
3. 第II神殿の塑像のあるフリーズ
4. 炭化した木彫断片の保存

図 版



『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2008年度(第1次～4次ミッション)』中央アジア文化遺産保護報告書 第3巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査 第1巻(②セ05の一環として実施)

本書は、平成20(2008)年度にタジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所と東京文化財研究所が共同で実施した「タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復」事業の活動内容を報告するものである。(2010年3月刊行)

ごあいさつ

前言

目次

図版一覧

表一覧

図版出典

- I. 事業概要
 1. 事業の経緯と目的
 2. ミッション概要
- II. タジキスタン出土の壁画
 3. タジキスタンの遺跡から出土した壁画
 4. タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画断片
- III. 壁画断片の保存修復
 5. 壁画断片の記録
 6. アーカイヴ資料の調査とデジタル化



- 7. 状態調査
 - 付録Ⅰ 損傷状態目録
 - 付録Ⅱ 状態調査の項目と評価基準
 - 8. 壁画断片のクリーニング
 - 9. 壁画断片群KH08-001のクリーニングと接合
 - 10. 壁画断片群KH07-001のクリーニングと接合
 - 11. 博物館および収蔵庫の温湿度環境
 - 12. 壁画断片の光学調査
 - 13. 壁画断片の彩色材料
- Ⅳ. 人材育成とワークショップ
- 14. 人材育成と技術移転
 - 15. ワークショップ

『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度（第1次ミッション）—』インドー日本文化遺産保護共同事業報告 第1巻（②セ05の一環として実施）

本書は、アジャンター壁画の研究史、保存修復の歴史から、東京文化財研究所とインド考古局による「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」の実施にいたるまでの経緯、そして平成20（2008）年度に実施した第1次ミッションの概略をとりまとめた報告である。（2010年3月刊行）



口絵

ごあいさつ

前言

前言

図版一覧

表一覧

- 1. 事業概要
 - 1.1. 事業の目的
 - 1.2. 世界遺産「アジャンター石窟」の概要
 - 1.3. 合意書の締結にいたる経緯
- 2. アジャンター壁画と日本
 - 2.1. はじめに
 - 2.2. アジャンター壁画研究史の梗概—欧米と日本—
 - 2.3. アジャンター壁画と摸写制作—大英帝国統治下における試み—
 - 2.4. 日本人とアジャンターの出会い—大谷探検隊によるアジャンター石窟調査—
 - 2.5. 日本人画家によるアジャンター壁画の模写
 - 2.6. 結びにかえて
- 3. アジャンター仏教壁画の保存修復に関する現状
 - 3.1. アジャンター石窟における保存修復の歴史
 - 3.2. アジャンター石窟の壁画の保存修復の現状に関する事前調査
- 4. 調査対象窟の形式と壁画主題
 - 4.1. 第2窟の形式と壁画主題

⑥刊行物 Area22

- 4.2. 第9窟の形式と壁画主題
- 5. 第1次ミッション
 - 5.1. 第1次ミッションの概要
 - 5.2. 壁画の写真記録
 - 5.3. 壁画の状態調査
 - 5.4. 光学調査（赤外線、紫外線を用いた写真撮影）
 - 5.5. 環境調査
 - 5.6. コウモリの糞尿害に関する調査
 - 5.7. 壁画の技法・材料の調査
 - 5.8. 壁画の編年に関する調査

『染織品の保存と活用』（ビデオDVD）（②セ06の一環として実施）

このDVDビデオは、文化財の保存修復の研修に活用するための教材として、染織品に関する基礎知識およびその取り扱い方法についてまとめたものである。同内容で日本語版と英語版を製作した。（2010年3月製作）



PART 1 保存と活用の基礎知識

- ・染色品の構造と素材
- ・繊維の種類
- ・染織品の劣化・損傷
- ・染織品の劣化・損傷の抑制

PART 2 染色品の取り扱い

- ・基本の取り扱い
- ・染織品を移動する
- ・染織品の位置を変える
- ・染織品を裏返す
- ・収蔵方法
- ・展示方法
- ・表面清掃

Care of Textile and Costume Collections

PART 1 Introduction

- Structure and Materials
- Fibres
- Deterioration and Damages of the Textiles
- Preventing Deterioration and Damages of the Textiles

PART 2 Handling the Textile Objects

- Preparation for Handling the Textile Objects
- Moving and Lifting
- Rotating
- Turning Over
- Storage

- Display
- Surface Cleaning

『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』（②セ06の一環として実施）

本冊子は、木川りか他著「文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて」（『文化財保存修復学会誌』48、pp.98-113、2004年）を再構成したもので、内容は博物館などのカビのコントロールについて基本的なことからまとめたものである。（2010年3月刊行）



はじめに

目次

PART 1 カビについて

1. 文化財を加害するカビ
2. カビの発生する原因
3. 人体に対するカビの影響

PART 2 カビの予防について

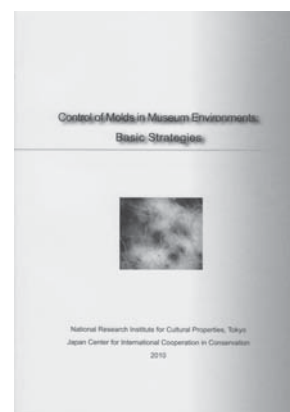
1. 温湿度の管理
2. 展示収蔵室内空気の清浄化
3. 見回りと点検
4. カビ発生時の対処
5. 殺菌・燻蒸について

まとめ

参考文献

Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategies（②セ06の一環として実施）

このテキストは、海外からの招聘研修等において活用するための教材として、上記の『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』を英語に翻訳したものである（2010年3月刊行）。翻訳はCanadian Conservation InstituteのTom Strang氏の監修による。



Foreword

Contents

PART 1 What are mold microorganisms?

1. Mold damage
2. Cause of mold growth
3. Effect to human body

PART 2 Prevention and control of mold

1. Temperature and humidity
2. Sanitation and clean air in storage and display area
3. Checking and inspection

⑥刊行物 Area22

4. Countermeasures

5. Fungicide and fumigation

Summary

Bibliography

『鈴木敬寄贈図書目録』（③情03の一環として実施）

東京大学名誉教授で学士院会員であった故鈴木敬氏旧蔵書のうち、当研究所に寄贈された『景印文淵閣四庫全書』全1,500冊、縮本『四部叢刊初編』全440冊、『大清曆朝実録』全94冊について、総目録を刊行。

鈴木規夫「刊行にあたって」

目次

渡邊明義「鈴木敬先生と蔵書のこと」

鈴木敬氏略歴ならびに業績一覧

景印文淵閣四庫全書

四部叢刊初編縮本

大清歴朝実録



『国際資料室蔵書目録』（③セ08の一環として実施）

本冊子は、2009（平成21）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した572点（和漢書214点、洋書358点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌454種類を掲載した目録である。



『各国の文化財保護法令シリーズ [6] カザフスタン』（③セ07の一環として実施）

本シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、一昨年度より発行を続けているA5版冊子である。諸外国での文化財保護制度に法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子はカザフスタン共和国での文化財保護に関する現行法を、公用語のロシア語から日本語に訳したものである。原文も併せて綴じてある。（2010年2月刊行）

歴史文化遺産の保護及び活用に関するカザフスタン共和国法

Об охране и использовании историко-культурного наследия



『各国の文化財保護法令シリーズ [7] キルギス』(③セ07の一環として実施)

本冊子はキルギス共和国の文化財保護に関する現行法の和訳及びその原文となるロシア語テキストを綴じたものである。(2010年2月刊行)

歴史文化遺産の保護及び活用に関するキルギス共和国法

Об Охране и использовании и историко-культурного наследия



『各国の文化財保護法令シリーズ [8] トルクメニスタン』(③セ07の一環として実施)

本冊子はトルクメニスタン国の文化財保護に関する現行法の和訳及びその原文となるロシア語テキストを綴じたものである。(2010年2月刊行)

歴史文化財保護に関するトルクメニスタン法

Об охране памятников истории и культуры Туркменистана



『各国の文化財保護法令シリーズ [9—a1] フランス』(③セ07の一環として実施)

本冊子は、2009年2月19日に改正された「フランス共和国文化遺産法典」の第1巻から第3巻までの和訳である。これを前編とし、第4巻～第7巻の和訳は来年度、後編として次号に発表する予定である。また本

⑥刊行物 Area22

法典中に引用された他の法律の条文（原文）を紹介した註釈は、巻末にまとめて記載した。（2010年3月刊行）

フランス共和国文化遺産法典

第一巻 文化遺産全体への共通規定

第二巻 古文書類

第三巻 図書館

（註）関連条文

